第11回小諸市学校教育審議会　議事概要

令和2年1月29日（水）開催

開催日時　　令和2年1月29日（水）18時30分から

開催場所　　小諸市役所　第１会議室

出席委員　　出席委員　　井出　忠臣、内堀　繁利、西村　廣一、相原　良男、
岡部　弘美、望月　伸一、小林　千種、畑田　治
以上8名
（欠席者　鹿取　俊彦、白鳥　卓也、福田　秀永、
矢嶋　　真）

１　開　会（進行：学校教育課長）

２　会長挨拶

井出会長　　皆さんこんばんは。大雪が心配されていましたが、小諸市はそれほど積もることもなくて良かったと思います。

さて、今年の春闘が始まったと連日の報道等でみなさんご存じのことと思います。これまでの春闘とは要求内容が様変わりしているとのことですが、単なる賃上げ交渉だけでなく、今後の働き方についてが焦点の１つになっています。経団連の方針では年功序列型賃金や終身雇用を見直し、それに代わって IT 人材の確保のために中途採用や通年採用を拡大することや専門性や職務成果を重視した賃金体系にしていくようです。この背景にはデジタル社会や国際化への急速な変化に対応するための即戦力を求めているとの話も聞いております。新卒社員を社内育成していては間に合わない時代になってきているようです。今の子どもたちが社会に出るのは一番早くて今の中学生が高校を卒業する３年後、大学を卒業する場合には７年後か８年後になります。子どもたちに求められる技能や能力だけでなく、働き方や賃金を得る方法も急激に変化する時代になったと実感しました。審議会の中間まとめの第１章「児童生徒を取り巻く社会と教育の変化」の中で「急速に社会は変化し、社会で働く内容も環境もまた変わり続けている。これからを生きる子どもたちには厳しい情勢を乗り越え、高い志や意欲を持って、他者と協働しながら未来を切り出していく資質・能力が求められている」と記しましたが、既に変化が生まれ、現実のものとなっています。本当に子ども一人ひとりに今を生きる力を育てていかなくてはいけないと改めて感じました。

さて、今日は中間まとめの最終案の検討をしていただきます。特に前回からの変更点を点検していただきまして、次回の審議会で最終まとめができるようにしたいと思います。あわせて小中学校の再編に向けて学校区についての審議も今日から始めて行きたいと思います。皆さんのおかげで審議がほぼ予定通りに進行できていてありがたく思います。本日もよろしくお願いいたします。

３　協議事項　（進行が会長に移る）

（１）審議の中間まとめの確認

井出会長　　これまで出された意見を元に改めて中間まとめ案を制定しました。前回までの資料の冒頭部分をまとめ直したものを「はじめに」として記載しました。大きな変更はありませんので、後でお読みいただきたいと思います。前回からの変更点ですが、まず第６章の１学校教職員と行政サービスの集約の部分に、内堀副会長をはじめ、これまでの審議会でも度々議論されていた一貫性のある取り組みを実現するために必要な教職員確保の項目を追加しました。また、西村委員や岡部委員から地域支援がまちづくりや地域の活性化に繋がるとの意見をいただきましたので６章の２市民参加による教育の推進の箇所に文章を４行加えています。さらに前回の審議会で、小中一貫教育を進めること、学校形態は併設型を取り入れることについて皆さんから同意いただきましたので、その旨を新たに第７章にまとめました。この章は特に文章や項目の追加の有無等についてご意見や要望を出していただきたいと思います。なお、この章の中で文部

科学省の「小中一貫した教育課程の編成に関する手引き」から抜粋して説明している部分がありますが、ここは市民の方が分かりやすくなるように改めて内容を精査したいと思います。さらに、中間まとめを発表した際に、おそらく学校の先生方から業務量が増えるのではないかと意見が出されることが考えられますので、別に項目を立てて記載しています。こんな形で皆さんからいただいた意見を反映してみました。

案を作成するにあたって、このままいくと学校の先生方の負担が大きくなりすぎてしまうのではないかですとか、学校地域共同本部や市民ボランティアの活用が重要だが、先生方との軋轢が生まれてしまった実践報告もあり、学校と地域の役割についての共通理解の仕方について懸念があるなと感じていました。この点についても含めて、これまでのところでご意見いただきたいと思います。西村委員いかがでしょう。

西村委員　前回意見したことを会長にうまく文章化していただいたと思いますので大きな変更点はありません。今会長がおっしゃられたように、学校地域協働本部の設置は進めて行くべきですが、そのためにも地域と学校との橋渡し役になるコーディネーターの役割がとても大事になると思います。ただ、それだけの力量を持った方がなかなか見つからないことが各地で抱えている課題ではないでしょうか。しかし、こういったコーディネーターのサポートを受けて学校地域協働本部が機能している地域は存在しています。

井出会長　地域でそういった人材をどのように探すのか、あるいは育成するのかが重要ですね。ただ少なくとも地域の方一人ひとりの力を貸していただく際には欠かすことが出来ない点だと思います。

西村委員　これまで子どもの教育は学校に任せてしまうことが多かったですが、今回のような学校再編を考える時には地域の理解がないとできません。学校を地域皆で支え、応援していくスタンスを持つためにも中間まとめに入れて頂けて良かったと思います。

井出会長　地域との関わりのお話しがありましたが、相原委員どのようにお感じですか。

相原委員　地区の中には児童館等で放課後に子どもたちの宿題の面倒をみたりする活動を行っているところもあります。先日テレビで学校が放課後の子どもの外出について決まりをつくっていて、子どもたちが塾や遊びに出かけられずに困っていると紹介されていました。こんな例も含めて地域との関わりは子どもたちが学校を出た後が重要になってくるのかなと感じます。

井出会長　私もこの間長野県版の NHK のニュースで水明小学校の田んぼリンクの話題を知りました。80 歳を超える高齢者がいきいきとリンク整備に活躍されている様子がとても印象的でした。これから学校再編が進んでも、こういった地域からの協力は大事にしていきたいですね。

ありがとうございました。それでは今回のまとめ案を元に最終案を作成した

いと思いますが、よろしいでしょうか。
（一同うなづく）

（２）小学校再編・改築にむけた「見える化」について

井出会長　第 4 回の審議会で望月委員から提供していただいた資料を基に議論をしていきたいと思います。小中学校の再編の検討を始める前に皆さんと押さえておきたい点が幾つかあります。まず、併設型小中学校をつくることのできる規模を考えること、前段で行われた長期学校改築計画検討会で出された児童生徒数や学級数を満たすこと、最後に市民や地域の願いを取り入れていくことの 3 点が学校再編の議論の前提になるかと思います。こういった点を元に皆さんの意見を伺いたいと思います。

今日のところは学校再編に対して皆さんが考えていることや協議したいことをお聞きして、今後の議論の切り口を見付けていきたいと思います。どんな観点からでも構いません。またご自身の中で結論が出ていないことでも結構ですので、お考えを伺いたいと思います。小林委員いかがですか。

小林委員　水明小学校にはバス通学が認められ、経済的にも支援を受けている地区があります。今後学校の場所にも因ると思いますが、再編後もし遠距離通学になった場合にバス等の利用が可能なのかが問題になると思います。仮に現在の児童数が少ない千曲小学校の児童が別の学校に通うとなったときにバス通学ができるのかですとか、バスを利用する費用の支援ができるのかが心配になります。それから同じ地域の中で学区が分かれているところもあると聞いているので、地域と一体型の学校にしていくのであれば通学区をどのように分けるかが重要になってくるのではないでしょうか。

井出会長　確かに第 9 回に配布された行政区と通学区の相関図をみると、行政区を跨いでいる通学区が複数あることが分かります。坂の上小学校と野岸小学校の学区に複数ありますが、加増区や菱野区等ほかの学校間でも当てはまる箇所がありますね。

岡部委員　先ほど学校規模や併設型の学校を整備することを議論の前提にするとお話がありましたが、やはり千曲小学校の規模のことが挙げられるのではないかと思います。また、坂の上小学校と野岸小学校の位置関係が近いことから、最初に再編の対象になるのではないかと、市民の中で話題になることもあるようで、関心が高いように思います。いままで審議会で考えてきた望ましい学校の姿を作り上げるために必要なことだときちんと説明がつくようにしなくてはいけないと強く感じています。

相原委員　審議会で検討した結果を地域に説明する時がいずれ来ると思いますが、如何にその目的を理解していただくのか、新しくことに取り組んだ結果、何がどう良くなるのかを明確にすることが大切だと思います。具体的な内容が無いと説明も難しいのではないでしょうか。

私が住んでいるのは野岸小学校の通学区ですが、野岸小学校は校舎の工事が

終わってようやく落ち着いて児童が学校生活を送れる環境になったところだと思います。学校再編の実現が何年後のことになるかは分かりませんけれども、地域にも色んな弊害が生まれてくるだろうと思います。例えば坂の上小学校と野岸小学校の距離についても通学区全体見ると近いとは言い切れないのではないでしょうか。また、例えば3つの小学校区を含んでいる古城区のような地区では色んな意見が市民から出てくることが予想できます。地域の理解を得るには、結論まで示せなくても、こうしていきたいと提示することが必要だと思います。

西村委員　　お話しを聞きながら2つの視点があると考えていました。1つは通学時の安心安全です。小林委員もおっしゃっていましたが、私もバス通学の検討は不可欠だと思います。もう1つは統廃合後に地域の活気を失くさない方法についてです。中間まとめにも記載されていたとおり、地域の方にどのように学校の中に入ってきていただくか具体的に考えなくてはならないと思います。良い表現かどうかわかりませんが、学校と地域が一体となって進んでいく仕組みや組織も一緒に作れば、ある程度地域からご理解いただきやすくなるのではないかなと感じています。

また、現在の児童生徒の総数と進学先比率を見ますと小諸東中学校区に約60%、芦原中学校区には40%ほどとなっています。今後の経済動向を考えるとこの割合は小諸東中学校区に片寄っていくように思います。そのことを勘案して生徒数のバランスが取れるように考えていくべきであろうと感じました。また、まちのイメージを考えると、佐久市に近いエリアがいわゆる振興地域のまちづくりをしていて、市内の中心部は都会的なまちづくりが行われているように感じます。それぞれのエリアで行われているまちづくりを元にした学校づくりをすることも考える必要があるかと思います。

畑田委員　　私は市内の児童生徒数は今後大幅に減少していくと思っていたのですが、資料の推計をみると予想よりも緩やかに減少していくのだなと率直に思いました。ただ、現実問題として私はまず千曲小学校を取り上げて考えたいと思います。二十数年後の推計を見ますと、千曲小学校は児童数が60人なると予想されていますが、1学年あたり児童が10人となると学校運営上の問題が多く出てきます。例えば、校内掃除を子どもたちだけでできるのかだとか、児童会が組織できるのかといった問題が挙げられます。こういった不都合が出てくると保護者の方からも早く統合を進めてほしいという動きも出てくるのではないでしょうか。ですが、そこまで問題が深刻になってしまってからでは、議論に時間は取れなくなってしまうと思います。したがって、早い時点で千曲小学校の保護者や地域の皆さんはどのような形が望ましいのかを伺って、今から方向付けしていく必要があると思います。

それから、中間まとめにもありましたが地域連携型の一貫校となると、先生方の業務量が増えることが予想されます。しっかりとした構想を持っていないと学校運営にも支障が出ます。地域連携型かつ併設型一貫校の構想を練りつつ、これから千曲小学校が発展していくにはどうすればよいか方向性を示していかなくてはいけないのかなと感じました。

望月委員　今まで出された意見とは少し違った面からお話しさせていただきたいと思います。今回までで中間まとめがほぼ出来上がりましたので、この内容の「見える化」が必要なのではないかと感じました。今、学校再編の具体的なお話をされ出し始めましたが、なかなか具体的に考えるのが難しいように思います。やはりこの中間まとめの内容を一度「見える化」してこれから何が必要になるのか整理してはいかがでしょうか。

例えば、学校規模は最低2クラスから3クラスで、1クラス20人から30人が望ましいというご指摘がありますが、この人数を維持しないとどういった支障が生まれてくるのか、これまでに英語の授業をはじめとした授業の形が変わるとお話しが出てきましたが、この人数を下回ってしまうと上手くいかないといったことは「見える化」して示せると思います。他にも、学年を越えた繋がりや関わり合いや、すでに始まっている芦原中学校区で小学校から中学校への円滑な接続に向けての取り組み、学校を核としたコミュニティづくりの面からは、地域住民一人ひとりが関わり合える部分や、市民ボランティアや学習サポートの姿を見せることでイメージづくりができると思います。加えて資料では若干公共機能に関する部分が少ないように感じますので、学校図書館を地域住民も利用できるようにしていくですとか、そういったイメージも少し作れるのかなと思います。それから、ICTによる教育では、学習の仕方が変わり個々の能力に応じた学習が授業と補習と家庭で必要と言われています。タブレット型又はノートパソコン型端末をどのように使っていくのか、どの程度の人数がいないとやりにくいのかといったところを少し取り入れて、中間まとめの内容を「見える化」したものを作った方が議論しやすくなるのではないかと思います。

井出会長　ありがとうございます。確かに中間まとめの内容も「見える化」したいですね。

望月委員　それでは、十分ではないかもしれませんが少し手をつけ始めましてご意見をいただいたり、修正を加えたりしながら3月の中間まとめまでにそういったイメージをつけていきたいと思います。また、その間に第4回のバックデータの資料を補強していけば説明できるかと思います。

内堀副会長　今改めて諮問内容を確認していたのですが、基本方針に基づいて、より具体的な小諸市立小中学校の改築・再編計画の策定を進めるにあたり、審議会の意見を聞く、ということが主になっていますね。ただ、審議会の中では、いきなり再編の話をするのではなく、今後求められる学校や学びの姿について優先して考えることとして、これまで会議をしてきたということだと思います。

その上で、まず、我々審議会の意見として、どこまで求められているのか共通見解を持っておいた方がいいのではないかと思います。具体的な学校名を出していくのか、再編に必要な観点や視点を示すところまでなのかを整理しておかなくてはいけないと思います。

それから、この議論をしていく上では工程やスケジュール観が大事になってきます。一体いつを目安として考えるのかを明確にしておく必要があります。

もう一つ、千曲小学校という具体的な校名がいま挙げられましたが、区と学

区の相関図に載せられている小学校の位置を見ると、千曲小が一番芦原中学校に近く坂の上小が最も遠い小学校に見えますが、この図の中でおおよその学校の位置も示されていると捉えてよろしいでしょうか。

事務局　　学校の位置はほぼ図のとおりです。直線距離だと千曲小学校が芦原中学校に一番近い学校ですが、実際には起伏差や迂回路があるため通学する道のりを考えますと芦原中学校区の中で一番遠くなります。

内堀副会長　　ありがとうございます。中間まとめの中で、小中一貫校創設の際には小中学校はできるだけ近い場所に移動するとしていましたから、相反する議論にならないように注意が必要だという意味で確認しました。

それから、議論を根本からひっくり返すことになるかもしれませんが、確認しておきたいことがあります。諮問内容に、基本方針を基に議論するようにとありますから、審議会ではそれに沿って議論しなくてはなりません。ですが、この方針がつくられた時点と今では、教育に対する考え方が変わってきています。教育の世界も変化が激しく、数カ月経過しただけで大きく変わるほどです。例えば、東信地区の大日向小中学校や風越学園では学年制を敷きませんし、県のへき地教育に対する考え方も、複式学級解除のために人員配置を行う方向から、遠隔通信等を活用して他校の児童生徒や教員と交流を図りながら複式学級を維持する方向へと変化してきていると聞いています。つまり、学年ごとに必要な教員を配置し生徒の規模を維持しながら教育を行っていくスタンスをとるのか、ある程度生徒が減少しても機器の活用や工夫で学びを補うスタンスを取り入れるのかを議論の前提として、審議会で考えておくことは非常に重要だと考えています。

私たちが答申した内容が実現するのは5年後10年後、あるいはもっと先のことだと思いますが、基本方針に沿って何年か前の知見だけで考えて、新しい考え方が広がっていく可能性を考慮しないのでは、再編後の教育の常識と乖離しまう可能性もあると思います。また、できるだけ中学校の近くに学校設備を用意すること、中学校の建て替え時期が来たら義務教育学校について考えることと中間まとめにありましたが、年数だけを考えて建て替えを行っていくと各校の築年数のズレが解消されないまま義務教育学校が実現しない可能性もあることも考えておく必要があるのではないかと感じています。

なので、まず基本方針で出された1クラス20人から30人の基準を満たさなければ何が不都合なのかを改めて審議会でも議論することを含めて、「基本方針に基づいて」の部分を確認しておく必要があると思います。

今日は今後の議論の視点を出すことが目的でしたので、思いつくままに何点か挙げてみました。実際に議論をどのようにしていくのかは皆さんと協議していくことですが、私個人としてはすごく難しい話をすることになるなという認識を持ちました。

井出会長　　ありがとうございます。色んな視点からお話しいただきました。
この審議会は長期学校改築検討会の提言を受けた後、教育委員会が定めた基本方針の内容を前提としています。なので、この前提を崩すのは難しいかと思い

ます。そこを崩してしまうとゼロから時間をかけて審議していかなくてならなくなってしまいますから、その議論についてはご勘弁いただきたいと思います。
　また、これまでの審議で、今後の教育を進め方の方向を出すところまで議論が出来ていますので、少なくとも現段階をベースに考えていきたいと思っています。
　加えて芦原中学校と小諸東中学校のそれぞれの学区で小中一貫校を創設することについてまで委員の皆さんから同意をいただいています。学校再編を考えるときには特定の学校だけを取り出して考えるのではなく、小諸市全体の小学校を対象に考えていかなくてはならないと思います。その上で併設型一貫校を成立させるための編成を検討するという筋は大切にしたいと考えていますがいかがでしょうか。

西村委員　　先ほど内堀副会長から、審議会の答申内容は具体的に再編する学校名を出すのか、学校再編の考え方だけで止めるのかの 2 つの方向性をお出しいただいたかと思います。審議会に求められているのはどちらなのでしょうか。

事務局　　事務局としましては、児童生徒数等をふまえながらどの学校が対象になるのかというところまで審議会の中で一度結論づけしていただけると方向性が定まるのではないかと考えています。ですので、審議会でもそのような観点でお願いできればと思っております。

井出会長　　具体的に学校再編の対象学校の名前を挙げて、学校の統合や通学区の見直し、再編について意見を審議会で出すということですね。

事務局　　その様にお願いしたいと考えております。

井出会長　　ありがとうございます。
　もう一つ明確にしておきたいことがあります。これまでの議論から、芦原中学校区と小諸東中学校区とでこれから小諸市内に 2 つの大きな学校ができることになります。そうなると通学区の割り振りが大事になってくるのではないでしょうか。なので、芦原中学校区と小諸東中学校区をどこまでにするのかを検討して、その後小学校をどうするのかを考えるという順序になるのではないかと思いました。先ほど学校間の距離が近い 2 校の名前が上がりましたが、そういった視点からではなくて、あくまでも中学校の学区を軸にした学校を創る点から検討を始めてはどうでしょうか。そう考えると学区の面だけをみればすぐに併設型小中一貫校の形をとれるのではないかと思います。その点どう思われますか、畑田委員。

畑田委員　　将来的に集約されて併設型で連携する学校の数は中学校 1、小学校 1 になっていくのではないかと思います。ただ、通学についての確固とした考えや想いを地域は持っていますので、無視して進めることはできません。やはり私は地域の方の考えや要望を早目に吸い上げる必要があると思います。長野市でも山間部の学校をどうするのかと問題になっていると聞いています。ただ、小諸市

は坂の上小学校と野岸小学校のように学校同士の距離が極めて近いという問題の他に、小規模学校の問題を抱えている独特な状況にあるのでより慎重に市民の声を吸い上げた方がいいと思います。

小林委員　　芦原中学校と小諸東中学校と区の分け方ですが、千曲小学校、坂の上小学校、水明小学校の児童は全員芦原中学校に進学することになっていたでしょうか。それとも、どこかの学校は半々で両中学校に進学するようになっていたでしょうか。

事務局　　水明小、千曲小、坂の上小の児童は全員芦原中学校区になります。野岸小学校区に一部芦原中学校区が含まれており、芦原中と小諸東中に進学先が分かれます。

小林委員　　ありがとうございます。
そうであれば、野岸小学校通学区で芦原中学校区になっているごくわずかの地区が今後一番分け方を考える箇所になるのではないでしょうか。進学する中学校が変わらない水明小、千曲小、坂の上小の 3 校の地域の方から大きな反対意見はないだろうと思います。ただ児童の進学先が分かれる野岸小学校区の地域の方達が納得できる分け方ができるのかが 1 つ目の問題だと思います。中には今の進学先よりも近いから別の学校に通いたいという家庭もあるのではないでしょうか。やはり、地域の方に今まで通り分け方がいいのか意見を聞くべきだと思います。この点がはっきりすれば中学校区も決まってくると思います。

相原委員　　どちらかに決めなくては次に進めないですから、両中学校の生徒数の比率で決めるのであれば簡単だとは思います。ただ、行政が決めたことに対してきちんと説明できるようにしなくてはいけないので、現状の生徒数だとか具体的なデータを示す必要があると思います。

井出会長　　例えば荒堀区ですと、目の前に小諸東中学校があるのに人数比の都合でわざわざ遠い芦原中学校へ通学するとなったら、地域の方が納得しづらいように思いますが、いかがでしょう。

相原委員　　それを言われると何も決まらなくなってしまうかと思います。

西村委員　　荒堀区は野岸小学校の通学区でしたか。

岡部委員　　そうです。近隣にある加増区は東小学校と野岸小学校とで学区が分かれています。

井出会長　　それから先ほども出ていましたが古城区は千曲小、坂の上小、野岸小の通学区になっていますね。

相原委員　　古城区は城下団地も含めて縦の長さに特徴がある地域です。

西村委員　　先程確認したように教育委員会の意向に沿って、具体的な議論をすることが必要ではないでしょうか。資料の「地域特性と学校別学級数の変化」を見て単純に考えると、令和 15 年度各学校のクラス数を考えると小諸東中学校区は東小学校と美南ガ丘小学校だけを残して残りの 4 校を全て芦原中学校区にしてしまうとクラス数が 30 と 32 クラスになるので生徒の人数比的には丁度バランスがとれるように思います。

井出会長　　確かに単純な比較で考えるとそうなりますね。ただ、第 4 回の審議会で内堀副会長が指摘されたように、推計上東小学校全体のクラス数にそれほど変化はありませんが、児童数を見ると現在よりも大きく減って 1 学年 1 学級の可能性があり得る人数になっています。それを踏まえながら東小学校も再編について考えなくてはならないのではないでしょうか。

西村委員　　先程はそこまで思いが及ばなかったのですが、内堀副会長のお話しの中でどんどん教育のシステムが変化していくとありました。人口減少等を鑑み、統廃合を現在考えていますが、もしかしたら 10 年後、20 年後には今のままが良かったという議論が出てくるかもしれません。ICT の活用や非認知能力の育成について議論してきましたが、統廃合をしなくてもこれら全てをカバーできるようになる時代が来るかもしれません。これ以上は極端になってしまうので差し控えますが、とても難しい内容だと思います

内堀副会長　　検討会で出された提言の内容を基に議論したいという井出会長からのお話と、具体的に議論し答申してほしいという事務局からの要望がありましたので、これらを基に審議していくということで理解しました。ただ、先ほどお話ししたような可能性は常にあることを頭の片隅において議論をしていかないと、変な方向に論点がずれていく危うさがあるようにも感じています。また、具体的に再編・統合する学校の名前をこの会議で議論するためには、地域の意見を聞きながら市民合意を得るなど、慎重に進める必要があると思います。早く検討を進めてほしいという市民の声が多数あったというのは承知していますが、じっくり構えて取り組んだ方がいいだろうと思います。これまで検討してきたような新しい学びそのものは全ての小中学校でどんどん取り入れていって、先ほど言った小中一貫教育もできるところからどんどん新しいものを取り入れていって、学校の統廃合をどうするかの議論は慎重にしていくべきではないかと思いました。

井出会長　　ありがとうございます。今まで出された視点以外にもなにかご意見ありますか。岡部委員いかがでしょう。

岡部委員　　例えば古城区のように複数の小学校の通学区になっている区は育成会など地域での活動がしにくいという課題があります。学区の再編を検討する時にはこの課題を解消していくと前段の検討会でも意見が出されたと記憶していますので、学区のことをまず決めなくてはいけないのではないかと思います。

長年学区を見直す時期が来たらこの課題を検討することになっていて、あ

る意味地域に対する宿題になっている部分だと思います。ここから取り組み始めるのも１つの方法だと思います。単純に数字の理論ではありませんが、先ほど話題に出た野岸小学校区の中で、小諸東中学校に通学する地区の中から芦原中学校区へ変更の見直しを検討することや、将来的に２つの大きな中学校区に合わせて小学校区を再検討する際に市の中心部に位置する野岸小学校区が対象になってくる可能性自体を地域がどの様に感じているのかも考えなくてはいけないのではないでしょうか。

井出会長　　おそらく今まで通りの学区を望まれる方が多いのではないかと思いますが、実際に生活されている方の気持ちを聞いてみたいですよね。先ほど審議には慎重さが必要だとお話しに出ましたように市民の皆さんのお話しを継続してお聞きしていかないといけないと感じています。これまでの意見から何かお感じになったことはありますか。小林委員いかかですか。

小林委員　　事務局のお話しを聞いて、千曲小学校に通う児童のお母さんや保護者が統合をどう考えるのかを早目に聞きたいと思いました。例えば統合後にはバス通学等の支援が受けられるのかについてだとか、支援教員の配置数を維持し続けるために必要な規模を「見える化」して説明したうえでどう考えるのかを聞きたいなと思います。とにかく統合を最優先にしてほしいと意見が出るのか、「見える化」についての意見が出るのかは分かりませんが、課題点は子どもを通わせている保護者が一番分かると思います。加えて地域一体型の学校を目指すのであれば、地域の方が持つ意見も聞きたいです。

井出会長　　これまでの皆さんのお話しから幾つか論点が見えてきました。１つは小中一貫校の学区を設けることで、子どもたちにどんなメリットが生まれるのか、子どもたちを取り巻く環境がどの様に改善されるのか「見える化」して明確していく必要があること。同時に保護者や地域の皆さんの意見を慎重に聞きながら進めて行くこと。更に今後の色んな教育の方向や動向に関心を持ちながら審議していくことの３点です。これらのことを踏まえながら学校をどう再編していくのか、小学校１に対して中学校１が望ましいという話もありましたが、できるだけその形に近づけるための方向を検討していきたいと思いますがよろしいでしょうか。
（一同うなずく）

（３）中間まとめの公表について

井出会長　　審議会が発足して今年の３月で１年が経ちます。これまで議論してきた内容を市民の皆さんにお知らせしたいと思います。詳細については事務局から説明をお願いします。

事務局　　事前に中間まとめの公表について正副会長にご相談させていただき、おおよその日程について案を出していただきました。まず、今後のスケジュールについてですが、市民の方に説明する内容を事前に正副会長と事務局で事前に打ち合せしまして素案を作成しますので、２月に開催する審議会ではこの内容の確

認をしていただきたいと思います。そして、公表に向けた準備期間を考えますと 3 月下旬を開催候補日に考えております。会場の都合がございますので、事前に正副会長と相談させていただいて 23 日月曜日の夜 7 時からステラホールでの開催を第一候補に挙げさせていただきたいと思います。当日の内容は本日確認していただいた中間まとめの内容を調整したものの説明の他に、望月委員からご提案いただきましたもの等次回の審議会で議論していただいて確定していただきたいと思います。会の進め方については、審議会の皆さんに議論していただいた内容の説明は井出会長を中心にご説明していただきながら、事務局が進行と適宜補足を行いたいと考えております。委員の皆様も極力出席方向でお願いしたいと考えております。

井出会長　　繰り返します。３月 23 日月曜日の夜 7 時からステラホールで教育委員会の主催で実施予定です。審議がどこまで進んだのかは審議会で説明を行うとのことですがいかがでしょうか。
（一同異議なし）

井出会長　　ありがとうございます。中間まとめの当日は、ご都合のつかない方を除いて可能な限り委員の皆さんにはご出席いただきたいと思いますがよろしいですか。
（一同うなずく）

（４）その他

事務局　　皆さんご都合がつけばご覧頂きたいと思いカラー印刷のパンフレットをお配りしました。小諸市は「音楽のまち こもろ」という取り組みを行っておりまして、小中学校も音楽活動に非常に力を入れております。26 日の日曜日には、こども音楽コンクールの選考会が行われ野岸小学校管楽部が全国 1 位にあたる文部科学大臣賞を 2 年ぶりに受賞することが決まったとのニュースも届きました。前回受賞した際には美南ガ丘小学校合唱部も合唱部門で同じく文部科学大臣賞を受賞しダブル受賞となりました。

このように市内全体で音楽活動が盛んになったことを受けて、市内小学校から高校を通じて交流会を行いたいということで実行委員会が組織されました。年度末は各校の音楽活動が多忙になることから、全校参加とはなりませんでしたが、午前中は交流会、午後は一般の皆様向けの発表会という形で実施が決まりましたのでこの場を借りてお知らせいたします。2 月 22 日土曜日に文化センターでの開催となります。座席は参加児童生徒を除いて一般の方向けに 400 席程度用意がございますのでご都合が合うようでしたら是非ご覧いただければと思います。

井出会長　　ありがとうございました。それでは、次回の審議会の日程について引き続き事務局からお願いします。

第 12 回審議会の開催予定：2 月 20 日（木）18：30 から公開形式で実施。

８　閉　会

事務局　　慎重なご審議ありがとうございました。次回の審議会までに正副会長とともに中間まとめの打ち合わせをさせていただいて、素案を審議会に提案させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。